

マルチメディアアートの巨匠、
日本初の大規模個展

トニー・アウスラー
Tony Oursler
技術と霊知のはざま
Tech/Gnosis
～魔術、メディア、アート～
Magic, Media, Art

2026.7.3(FRI)–9.27(SUN)

虎ノ門ヒルズ

TOKYONODE



展覧会紹介

トニー・アウスラー(1957年-)は、映像インスタレーションやプロジェクションマッピングといった立体物に映像を投影する表現スタイルを切り開いたパイオニアであり、ニューヨーク・タイムズ紙(2001年4月27日掲載)は、彼を「ビデオによる空気の彫刻家(A sculptor of air with video)」と評しています。アウスラーは、映像、彫刻、音、光、言葉を組み合わせた不可思議な没入型インスタレーションで広く知られています。彼の活動は、1980年代以降のニューヨークにおける音楽とアートが交差するカルチャーシーンの中で形成され、様々なミュージシャンとのコラボレーションは、映像、身体、そして音の関係性を再定義しました。

彼はマイク・ケリー、コンスタンス・ディヤング、トニー・コンラッドといったアーティストたちとの親交があり、日本の現代アート界でも高く評価されていますが、これまで日本ではまとまった規模の作品が紹介されることがありませんでした。本展は、アウスラーの初期の代表作から本展に合わせて制作された最新作まで、一度に鑑賞できる日本初の大規模個展です。

アウスラーの作品世界は、ポップ・カルチャーやサブカルチャーから、科学、陰謀論、宗教、超常現象、宇宙に至るまで、多様な領域へ広がります。詩的なまなざしとユーモアを通して、データの流れや監視システム、霊や信号といった現代社会における「見えないもの」への欲望と不安を映し出し、観る者を思索と感覚の旅へと誘います。

本展では、世界的ミュージシャンのデヴィッド・ボウイとコラボレーションした作品を世界初公開するほか、現代美術家のジム・ショーも参加した初期作品《プライベート》(1993-1997年)や本展のキービジュアルでも使用している《スペキュラー》(2021年)などの主要作を通覧するとともに、構想から四半世紀を超えて作品化される未発表作《空》(2000年)、そして本展のための最新作《キメラ》(2026年)を発表します。加えて、アウスラーの創造の源泉でもある、科学、魔術、未確認現象などの約3,000点に及ぶ収集資料の一部も特別に紹介します。

現代社会において、テクノロジー(技術)が年々その比重を重くしている一方、逆説的に創造性やスピリチュアル(霊的)な領域も重視されるようになってきています。こうした状況のなか、「技術と霊知のはざま」を探求し表現するアウスラーの作品群は、今私たちに重要な問いを投げかけ、刺激的な体験をもたらすでしょう。

トニー・アウスラー Tony Oursler

1957年 アメリカ、ニューヨーク生まれ

1979年 カリフォルニア・インスティテュート・オブ・ザ・アーツ 学士課程卒業
アメリカ、ニューヨーク在住

1980年代から、ニューヨーク近代美術館 (MoMA、アメリカ)、ポンピドゥー・センター (パリ) など数多くの国際的な美術館で展覧会を開催。近年の主な個展に、2022年「Tony Oursler: Anomalous」フォト・エリゼ (ローザヌ、スイス)、2021年「Tony Oursler: Black Box」高雄市立美術館 (台湾)、2020年「Hypnose」ナント美術館 (フランス)、2016年「Imponderable」MoMA、2016年「M*r>0r」マガジン3世美術館 & 現代美術財団 (ストックホルム) など。国際的なグループ展にも多数参加。作品はポンピドゥー・センター、シカゴ現代美術館、MoMA、テート (ロンドン) をはじめとする多くの美術館が所蔵。国内では東京都現代美術館、国立国際美術館 (大阪)、金沢21世紀美術館など世界中の美術館で所蔵されている。

トニー・アウスラー
Tony Oursler



メッセージ

この度、日本で初めての大規模な展覧会を開催できることを、大変うれしく思い、熱意をもって取り組んでいます。日本文化は、1970年代に歌舞伎や日本の版画を研究し始めて以来、私を魅了し続け、私の制作活動に非常に重要な影響を与えてきました。これまで長年にわたり、日本で作品を発表する機会に恵まれてきましたが、初めて日本を訪れた1987年は、私の制作活動を形成する上で忘れがたい経験となりました。

長い年月を経て東京に再び戻り、そして友人のレム・コールハース率いるOMAが設計したTOKYO NODEの空間で本展を開催するのはまるで夢のようです。地上200mの天空のギャラリーTOKYO NODEは、文字通り雲の上にある、クリエイティブな体験のための興味深い『インキュベーター (育成装置)』です。本展は、私の幅広い制作活動の中から、とりわけ力強い選りすぐりの作品群を展示します。初期の作品から、近作、未公開の研究資料、そして皆さんへのちょっとしたサプライズも用意しています。

マルチメディアアーティストとして、私は常に日本を、奥深く複雑な歴史とハイテクな実験精神が共存する場所だと捉えてきました。このバランスは、私たちが強力な新しいテクノロジー (人間の本质そのものに問いを投げかける驚くべきツール) を乗りこなそうとしている今日において、特に重要だと感じています。創造性がこれらのテクノロジーを生み出しました。今問われているのは、このテクノロジーがもたらす問題に対処する上でも、我々の創造性が役立つかどうかです。私はその議論において、アートが極めて重要な役割を果たすと信じています。

マルチメディアアートの第一人者の代表作が一堂に会する日本初の大規模個展

日本を含む世界中の現代アートシーンを牽引してきた世界的巨匠の日本初の大規模個展。《プライベート》(1993-1997年)や《塵》(2006年)、《ロック2、4、6》(2010年)、またパルク・デ・アトリエ(アルル、フランス)およびルマ・ウェストバウ(チューリッヒ、スイス)のためにルマ財団の委託により制作され、現在はニューヨーク近代美術館(MoMA)にも収蔵されている《計り知れないもの》(2015-2016年)、さらに初公開の新作など、初期から現在までの代表作を網羅的に紹介します。

デヴィッド・ボウイとの共作を、四半世紀越しに初めて作品化し、世界初公開

アウスラーは、現代美術家のマイク・ケリー、ミュージシャンのJGサールウェル、Jマスシス、キム・ゴードン、コンスタンス・ディヤング、トニー・コンラッドといった、現代を象徴する数多くのアーティストやミュージシャンと共作し、常にジャンルを超越した作品を生み出し続けてきました。その中でも、世界的音楽家デヴィッド・ボウイおよび作曲家グレン・ブランカと2000年から共同で制作を開始していた《空(くう)》(2000年)を、本展で世界初公開します。

本展のための大型新作に加え、約50点の出展作品の約半数が日本初公開

TOKYO NODEの天井高15mに及ぶドーム型のギャラリースペースを活かした大型の新作《キメラ》(2026年)を制作中。アウスラーが収集・研究してきた、ネット上の人々の目撃談や噂から生まれた未確認生物をベースに、そこに隠された環境問題や都市伝説的な物語を浮き彫りにします。日本と世界各地のさまざまな「キメラ」が虎ノ門の上空に出現します。加えて今春台湾で発表された新作《星》(2026年)など、約50点の出展作品の約半数が日本初公開です。



1 《スペキュラー》

暗闇の中に浮かぶ大小さまざまな「眼」の玉のインスタレーション。鑑賞者は巨大な「眼」の群れに囲まれ、その表面に映り込むメディアの断片を目にするとともに、覗き見られる体験と鑑賞者自身が見る体験の循環を経験します。本作品は、現代の視聴文化における鑑賞者の位置を問う作品です。アウスラーにとって「眼」は重要なモチーフであり、彼は「眼」とは、私たちがイメージや物語を消費し続ける飽くなき欲求の象徴だと語ります。1995年から「眼」というモチーフを探求し続け、そのテーマと表現技法を常にアップデートしてきた現在進行形のプロジェクトです。



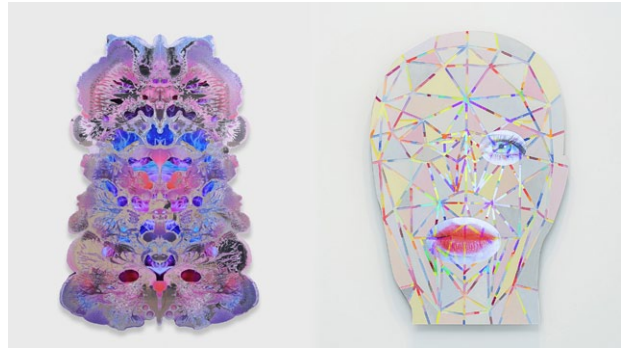
《スペキュラー》2021年、本展のための展示スケッチ

2 《MUR》

3 《C>o++》

日本初公開

《MUR(dusk)》は、曖昧な図像にも意味を見出す人間の知覚特性(パレイドリア)を扱うロールシャッハ・テストに着想を得ています。鏡像的なイメージと映像が観者を取り込み、見る／見られるの境界を揺さぶることで、知覚の不安定さと解釈が生成されるプロセスを可視化しています。《C>o++》は顔認証技術に着目し、人間の顔を座標と数値へ還元するアルゴリズムを扱います。特徴点の解析により個人識別を可能にすると同時に、個人のデータパターンや嗜好という私たち「デジタルフットプリント」にもつながっていきます。その結果として生み出される新たなポートレートは、デジタルな痕跡としてアイデンティティを拡張する一方、そのフレームワーク自体が規定や制約としても機能します。



左:《MUR (dusk)》2022年

Courtesy: The artist and Lehmann Maupin, New York, Seoul, and London

右:《C>o++》2017年

Courtesy: The artist and Lehmann Maupin, New York, Seoul, and London

4 《空(くう)》

世界初公開

本作は、アウスラー主導のプロジェクトであり、モノリス(巨大な石)にデヴィッド・ボウイによる語りのパフォーマンス映像を投影し、ギタリストのレグ・ブローを起用したエレキギターを駆使したスタイルで知られる作曲家グレン・ブランカによる特別な音楽を融合させた作品です。カメラ・オブスクラへの思索や、私たちの仮想世界を形作るために物質が光へと変容していく様への思索として着想されました。アウスラーによる詩的なテキスト、音楽、パフォーマンスを絶え間なく再構成し続け、重層的かつ変容し続ける体験を生み出します。映像自体は1999年から2000年に撮影されたものですが、《空》が完成した作品として完全に具現化され、展示されるのは本展が初となります。



左:《空(くう)》の映像からの静止画 2000年、デヴィッド・ボウイ、グレン・ブランカとの共作

Courtesy: Tony Oursler Studio

右:《空(くう)》(東京版)のための習作 2000-2026年、デヴィッド・ボウイ、グレン・ブランカとの共作

5 《ロック2、4、6》

日本初公開

心理学にも強い関心を持つアウスラーが心理学実験に着想を得て制作した、最も野心的なメタ=インスタレーションの一つ。多種多様な平面で緻密に構成される層に投影する映像と、ドラッグ・パフォーマーやその他の典型的なキャラクターたちのささやき声によって、鑑賞者はどのように知覚や誤認識を形成するかを探求します。液体がこぼれ、タバコの煙が漂い、スクラッチカードは際限なく外れ…意志、恐怖、強迫観念、そして自己の脆弱な構造を問いたただすことになるでしょう。



《ロック 2、4、6》2010年

展示風景:「Tony Oursler: Black Box」高雄市立美術館(台湾) 2021年 Courtesy: Tony Oursler Studio

6 《計り知れないもの》

日本初公開

この長編映像インスタレーションは、19世紀の錯視技法「ペッパーズ・ゴースト※」を現代的に解釈した3D映像として投影され、一見すると信じがたい、実話に基づいた物語を紡ぎ出します。キム・ゴードンやジム・フレッチャーをはじめとするアーティストやミュージシャン、パフォーマーなど多彩なキャストが、『シャーロック・ホームズ』の著者であるアーサー・コナン・ドイル、伝説的な脱出王ハリイ・フーディーニ、霊媒師のマージャリー・クランドン、そしてアウスラー自身の祖父母といった登場人物を演じています。本作の物語は、アウスラー自身が収集してきた心霊写真、手品の道具、擬似科学のガジェット、そして一族の遺品などのプライベート・コレクションから着想を得ました。本展では、これらの作品の内容とリンクする希少なアーカイブ資料もあわせて展示されます。ユーモアとシュルレアリスムを交えながら、本作は、私たちが何かを「信じること」と「イメージの真実性」との間にある不条理な関係性について、観る者に問いを投げかけます。

※半透明の板ガラスと特殊な照明技術により、「幽霊」のような実体のない映像を浮かび上がらせる視覚トリック



上:《計り知れないもの》2015-2016年
Courtesy: Tony Oursler Studio

下:《計り知れないもの》のアーカイブより、
降霊術を行うマージャリー・クランドン
Courtesy: Tony Oursler Studio

7 《カリカチュア》

このシリーズは、再構成された顔のパーツを立体物に投影することで、豊穣のシンボルとなる偶像や、デジタル空間の中で進化したかもしれない生命体を彷彿とさせるインスタレーションです。漫画や古代彫刻を参照した表情は絶えず変化し、甘えや囁きといった声を発することで、奇妙に擬人化された存在として立ち現れます。日本の携帯ゲーム「たまごっち」に着想を得た本作は、デジタル空間における生命のようです。愛らしさと不気味さが同居する中で、テクノロジー、感情、そして身体性の境界が揺さぶられます。

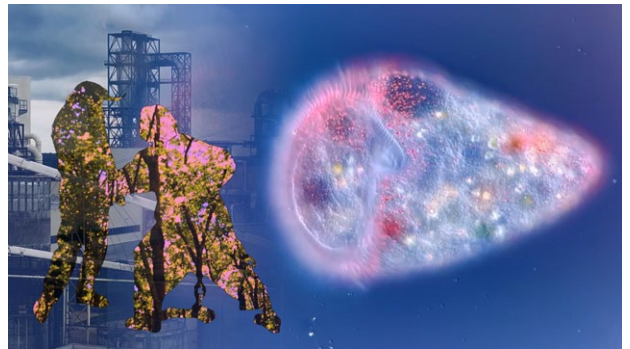


《カリカチュア》2003-2004年
展示風景:「Tony Oursler: Black Box」高雄市立美術館(台湾) 2021年
Courtesy: Tony Oursler Studio

8 《キメラ》

新作・世界初公開

TOKYO NODEの天井高15mのドーム空間を活かしたサイトスペシフィックな大型新作です。この作品は、空、水、植物の中に存在すると同様に、観客みんなの記憶の中にも息づく生態系であり、ユートピア的なデジタルの森を形成しています。アウスラーは、自然への回帰運動、記憶術の伝統、そして未確認動物学(UMA)のサブリミナルなバグ映像との間に類似性を見出します。この森に一歩足を踏み入れると、観客はこの世界に没入し、人間の想像力が生み出した生命像と自身の知覚の拡張を体感できます。



《キメラ》2026年、本展のためのスケッチ

Column アウスラーの探求とアーカイブ・コレクション

アウスラーの創作は、科学・魔術・未確認現象に関わる約3,000点に及ぶ収集資料と不可分です。UFO、キメラ、霊的存在や疑似科学に関するイメージや記録は、彼にとって単なる蒐集品ではなく、人間の知覚や信念体系がどのように形成されるかを探るリサーチの基盤です。リサーチの成果は映像やオブジェへと結実し、可視と不可視、信仰とテクノロジーの境界を揺さぶる装置となります。すなわち彼のコレクションは、創作の源泉であると同時に、現実認識の不確かさを批評的に提示する思考のアーカイブです。本展では、《計り知れないもの》と超常現象、《キメラ》と未確認生物や伝説に関わる資料、《我が土星の恋人(たち)》とUFO写真のように、彼の作品にかかわる資料を厳選して展示します。



左:UFOアーカイブより、ジョージ・アダムスキーによるUFO写真
Courtesy: Tony Oursler Studio
右:《我が土星の恋人(たち)》2016-2017年
展示風景:「Transmission」SCAI PIRAMIDE(東京)、2024年
Courtesy: The artist and SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo. Photo: Nobutada Omote.

#01 「トニー・アウスラー展」
開幕記念トークショー

トニー・アウスラーをはじめ、メディアアートに精通する美術批評家の畠中実、OMAのNY代表でありTOKYO NODEを担当した建築家の重松象平、本展担当キュレーターのアリス・ニエン=プー・コーと豪華ラインナップで本展を深掘りするトークショーを開催します。

会 期：2026年7月4日(土) 14:00~16:00 (開場 13:30)
 会 場：TOKYO NODE HALL(虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 46F)
 登壇者：トニー・アウスラー(アーティスト)
 畠中実(キュレーター)
 重松 象平(建築家 / OMA Partner)
 アリス・ニエン=プー・コー(本展担当キュレーター)
 モデレーター：椿 玲子(本展担当キュレーター)
 言 語：日英逐次通訳あり
 料 金：500円(税込)
 申し込み：アートパスにて専用チケットをご購入ください

#02 ギャラリーツアー



本展を担当した日米のキュレーターをはじめ、本展スタッフによるギャラリーツアーを定期開催。ギャラリースタッフとともに会場をめぐること、作品の背景にあるストーリーや展示に込められた想いを紐解くことで、本展をより深く理解いただくためのプログラムです。

7月3日(金)：アリス・ニエン=プー・コー(本展担当キュレータ) 18:00-18:30【英】
 7月10日(金)：椿 玲子(本展担当キュレータ) 18:00-18:30【日】
 7月15日(水)：椿 玲子(本展担当キュレータ) 14:00-14:30【日】
 7月29日(水)：椿 玲子(本展担当キュレータ) 18:00-18:30【日】
 8月12日(水)：椿 玲子(本展担当キュレータ) 14:00-14:30【日】
 8月22日(土)：水品(本展担当キュレータ) 14:00-14:30【日】
 集合場所：TOKYO NODE 45F・アライバルホール集合
 料 金：無料 ※事前申込不要

トニー・アウスラー：技術と霊知のはざま～魔術、メディア、アート～

会 期：2026年7月3日(金)-9月27日(日)
 会 場：TOKYO NODE GALLERY A/B/C
 開館時間：10:00-19:00(金土曜日は20:00まで)
 入場は閉館の30分前まで。開館時間は変更になる場合がございます。
 住 所：東京都港区虎ノ門2-6-2 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー45F
 主 催：TOKYO NODE
 企 画：椿 玲子(TOKYO NODE)、
 アリス・ニエン=プー・コー(インデペンデント・キュレーター)
 協 力：SCAI THE BATHHOUSE、Lisson、Lehmann Maupin
 アクセス：電車でお越しの方：東京メトロ 日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅、
 東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅」より
 お車でお越しの方：有料駐車場あり(B3F)

チケット情報

一般 Adults	¥2,400
大学生・専門学校生 University / College Students	¥1,400
中学生・高校生 Middle and High School Students	¥800

※消費税込

※学生チケットをご利用の際は学生証・身分証明書をお持ちください
 ※障害者手帖の提示で介助者は1名無料で同伴可

販売場所：ARTPASS(オンライン)およびTOKYO NODE(会場販売・会期中のみ)
<https://art-ap.passes.jp/user/e/tony-oursler/>

展覧会公式サイト：<https://www.tokyonode.jp/events/tony-oursler/index.html>
 お問い合わせ：TOKYO NODE インフォメーション 03-6433-8200(11:00-18:00)

虎ノ門ヒルズ TOKYONODE

「トニー・アウスラー：技術と霊知のはざま～魔術、メディア、アート～」広報事務局(株式会社OHANA 内)
 〒102-0074 千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F
 TEL:03-6869-7881 Fax:03-6869-7801 E-mail: tony-oursler@ohanapr.co.jp